

大雪対策

大雪災害が発生した場合には公助だけでは対応が困難なことから、**自助・共助での取り組みが非常に重要**になります。まずは、家庭内や地域で大雪時の対応について話し合い、あらかじめ大雪に備えましょう。

路面凍結に注意

信号交差点

信号交差点のある箇所では、車が発進や停止を繰り返すことによって、圧雪や凍結路面が摩擦熱で解けて、タイヤとの間に水滴ができるため、路面が非常に滑りやすくなることがあります。

橋梁(橋げた)

橋梁区間では、ほかの区間と異なり夜間には橋の下からも熱が奪われるので、路面の温度が低下しやすく、他の路面が凍っていても橋の上だけは凍結していることがあります。



トンネルなどの出入口

トンネルなどの出入口は日陰になることが多く、局所的に路面が凍結している場合があります。周囲が雪景色の場合には、トンネルの中と外での明るさが極端に異なることで状況が見えにくくなることを踏まえ、トンネル出入口付近での突然の路面変化に備え、走行には注意しましょう。

大雪が降った場合

除雪作業の注意点

雪かきスコップなどの除雪用具を用意しましょう。また、作業中は転倒や屋根雪の落下に注意しましょう。県・市町村は、所管する幹線道路を中心に、除雪作業を行います。住民の皆さんは、**自助・共助の精神に基づき自宅付近の除雪を行うなど通行の確保、孤立・閉じ込め状況の解消に協力してください**。ただし、個人敷地内も含め、**除雪した雪は事故やケガの元になりますので道路に出さないでください**。

落雪に注意しましょう

屋根の雪が解け始めると、**大きなかたまりになって落下する場合があります**。可能な限り屋根の雪を下ろすか、下に物を置かないようにしたり、通行者に注意を呼び掛ける表示をしましょう。歩行等通行中は足元に注意するとともに、頭上にも十分注意してください。



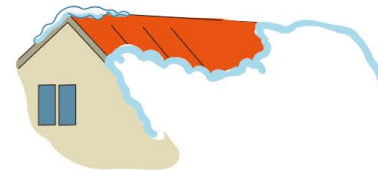
備蓄をしましょう

積雪により外出できなくなる場合に備え、水(1人1日3リットルが目安)、食料、灯油等の備蓄を確認しましょう。特別な非常食に限らず、普段から購入しているものを少し多く買い置きすることで十分です。(最低3日分・推奨7日分)



外出は控えましょう

積雪時には不要不急の外出は極力控えてください。自動車等により雪が踏み固められると除雪が遅れ、交通障害の原因となります。



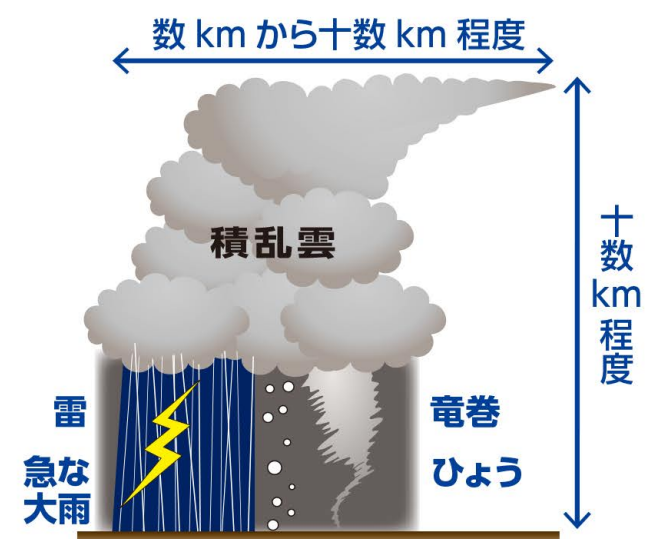
地域で助け合いましょう

近所にひとり暮らしの高齢者や障がいのある方がいる場合は、地域で協力して助け合いましょう。



竜巻対策

発達した積乱雲からは、竜巻、ダウンバースト、ガストフロントといった、激しい突風や雷をもたらす現象が発生します。竜巻は、積乱雲に伴う強い上昇気流により発生する激しい渦巻きで、多くの場合、漏斗(ろうと)状または柱状の雲を伴います。



積乱雲が近づくサイン

- 真黒い雲が近づいてきた
- 急に暗くなった
- 雷の音が聞こえてきた
- 急に冷たい風が吹いてきた
- 大粒の雨やひょうが降り出した

竜巻に遭遇した人からは次のような声を聞きます。このような場合には、あなたの身に危険が迫っています。

- 雲の底から地上に伸びる漏斗(ろうと)状の雲を見た。
- 飛散物が筒状に舞い上がるのを見た。
- ゴーという音がしたのでいつもと違うと感じた。
- 気圧の変化で耳に異常を感じた。

竜巻注意情報(気象庁)



ウイルス等の感染症が流行している中でも、**災害時には危険な場所にいる人は避難することが原則**

「自らの命は自らが守る」意識を持ち、適切な行動をとりましょう。

知っておくべき 3つのポイント

1 避難とは「難」を「避」けること

自宅での安全確保が可能な人は、感染のリスクを負ってまで避難所に行く必要はありません。

2 避難先は学校・公民館だけではありません

避難所が過密状態となることを防ぐため、**安全な場所に住む親戚・知人宅に避難することも検討**しましょう。

3 マスク・消毒液・体温計が不足しています

避難所の備蓄には限りがあるため、できるだけ**自ら携行**してください。(マスクがない場合にはタオル・ハンカチ等、消毒液はウェットティッシュでも代用できます)

避難先では感染症予防に努めましょう

・避難所に入る前に

感染の拡大を未然に防ぐことが非常に重要です。避難所に入る前に、発熱の有無など体調をチェックしましょう。

・換気の実施

可能な限り、定期的に換気を行いましょう。換気は季節を問わないので、寒暖差への防寒対策が必要です。

・手洗い、うがいをこまめに

食事前や、トイレなど共有部分に触れた後は、石けんと水で手洗いしましょう。水を十分に確保できない場合は、アルコール消毒液などで代用しましょう。

・「3密」(密閉・密集・密接)の回避

避難者同士2m程度の距離を保ちましょう。向かい合わせではなく背中合わせに座ったり、段ボールなどの間仕切りを利用すると、飛沫感染の予防になります。また食事時間をずらすなどして、密集・密接を避けましょう。

・咳エチケットの徹底

飛沫感染の予防のため、咳などが出ていなくても屋内ではマスクを着用しましょう。

・日々の健康状態をチェック

定期的に体温を測定し、体調の変化を感じた場合にはすぐに避難所のスタッフに相談しましょう。